

会報

みらい

発行人 神奈川県
身体障害施設協会
代表者 松永 徹
編集 広報委員
印刷 アガベセンター

contents

身体障害施設・事業所に関わる
制度動向・・・P1
各種大会報告・・・P1～2
各委員会活動紹介・・・P2

制度改革と私たちの仕事

神奈川県身体障害施設協会会長 松永徹

さる2月8日に開催された障がい者制度改革推進会議、総合福祉部会第19回において、障害者自立支援法を廃止し、それに替わる新たな法律案が厚生労働省から示された。後に「障害者総合支援法」という名称になったと報じられこの立法案については、これまでの総合福祉部会の議論及び55人の部会委員が一致してまとめた「骨格提言」とは大きく離れているものであり、総合福祉部会の各委員から「骨格提言をまもれ」という批判が相次いだ。また、実質的に障害者自立支援法を改正したものに過ぎない法律案であることについて、障害者自立支援法違憲訴訟の原告団からは、障害者自立支援法を廃止するという和解の合意について反している、という抗議が出されている。いずれも、もっともなことであると思う。実際に国会に法案が提出され、審議される過程を経ないと最終的には中味が決定しないので、まだ変わる部分もあるかもしれない。と、わずかな期待もある。

しかし、「税と社会保障の一体改革」など、懸案となっている社会保障制度の財源問題の解決の見通しがつかないところで、障害者施策だけが抜本的に変われるのかという危惧が、やっぱり現実のものになったという思いも持つ。日本の障害者施策では、画期的に変わるということが行われぬ。いや、日本では制度、施策、政治が、大きく変わるということが、結局ない。そういう不全感が重く沈殿していく。

制度がどうこうということではなく、目の前にいる利用者、あるいは、自分たちの支援を必要とする人たちに対して、どれだけ応えていけるか、それぞれの地域で何が出来るか、結局はそこに立ち返るしかない。

神奈川県身体障害施設協会では、各委員会がさまざまな利用者参加の催しをおこなっている。見方によっては、たいへんささやかなものである。しかし、参加している利用者にとっては、それが、日々の楽しみにつながっていたりする。ささやかなことが、人の生を支えることもある。何によって、人は生きていくことができるのか。私たちの仕事はそこを考え、大切にすること。それしかないな、と改めて思う。

(社会福祉法人翔の会 水平線 施設長)

各種大会結果報告

今年度も各地で様々な大会が開催されました。各大会の結果をご報告します。

卓上競技大会

平成24年2月4日(土)、神奈川県総合リハビリテーションセンター体育館にて第44回卓上競技大会が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、選手139名に付き添い者、応援、見学を含めると総勢約250名以上が集まり、熱戦が展開されました。また、最も印象的な選手紹介ポスターに贈られる審査員特別賞には、『絆』をテーマにした「すこやか園」さんが去年に引き続き見事選ばれました。試合結果は以下の通りです。(スペースの都合で個人は優勝者のみの紹介です。ご容赦ください。)



- オセロの部 優勝 広瀬 利浩さん(神奈川ワークショップ)
- オセロの部(ダブルス) 優勝 南 恭一さん(よこはまりバーサイド泉) 山口 舞子さん(よこはまりバーサイド泉)
- 団体の部 優勝 湘南希望の郷(50点) 準優勝 神奈川ワークショップ(37点) 第3位 シャローム浦上台(31点)

審査員特別賞 すこやか園



来年も皆様のご参加をお待ちしております。

卓上競技委員会 事務局 リエゾン笠間 西村

- 囲碁の部 優勝 中川 正昭さん(シャローム浦上台)
- 連珠の部 優勝 郡司 和徳さん(丹沢レジデンシャルホーム)
- 将棋の部 優勝 猪俣 留吉さん(湘南希望の郷)
- 挟み将棋の部 優勝 平松 肇さん(神奈川ワークショップ)

ローリングバレーボール大会

平成23年9月16日(土)スカイアリーナ座間(座間市立市民体育館)にて、神奈川県身体障害施設協会主催第22回神奈川県ローリングバレーボール大会が開催されました。

全19チームが参加し、3ブロックに分かれて熱戦を繰り広げました。回を重ねるごとにルールを熟知したプレイも見られるようになり、身体のおつかりあいだけでなく、頭脳プレイが随所で見られる見応えのある試合もありました。

体育委員会 アガベセンター 野村

第21回神奈川県ローリングバレーボール大会結果

	Aブロック	Bブロック	Cブロック
優勝	RVCハッスルかわせみ	サムライ寒川	丹沢ピーナッツ
準優勝	江ノ島バナナボーイズ	ローリングベアーズ	よこはまマリンファイターズ
第3位	にこにこ会	ドラゴンNo.1	ましまろ